

ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下に卵形で長さ 1cm ほどの鱗茎がある。葉は 1~2 個が根出状に出て線形、長さ 10~20cm、幅 3~8mm、断面は三日月形である。花期は 4~5 月、雌雄異株で、高さ 5~10cm の細い花茎の先に、雌花は 1~2 個、雄花は 2~4 個が、上を向いて咲く。総苞は卵形、膜質で裂けない。花被片は 6 個、長楕円形で長さ 4~5mm、白色または微紅色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15046, 1994-4-17)、3 東栄 (芹沢 86725, 2011-4-17)、8 鳳来北東部 (芹沢 86717, 2011-4-17)、18 田原西部 (村松正雄 26785, 2013-4-20)。西：5 稲武ににもあるという (小林 2006)。尾：48 春日井 (玉野, 岡田善敏 s.n., 1943-4-18) で採集された標本もある。

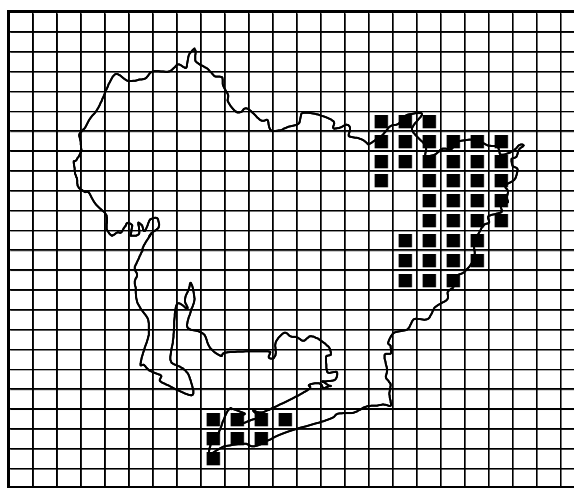
【国内の分布】

北海道、本州 (近畿地方以東)、四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズリ一。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の明るい落葉広葉樹林内や、林縁の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ある場所では群生することが多いが、小形の植物であるため、総量としては少ない。どの生育地でも草地の利用停止に伴い大型草本が繁茂し、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

草刈り等を継続し、草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

県内では雌株ばかりで、雄株は確認されていない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.74, 213. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.121, 平草本Ⅰ p.36, 平新版Ⅰ p.241, SOS 旧版 p.91.